

情報処理実習室を利用した医学・薬学系共用試験(CBT)の実施

学術情報管理課 事務補佐員 藤井 厚子

1. はじめに

全国の医療系大学では、医学・歯学教育改革が進められており、その一環として、臨床実習開始前に、「臨床実習前までに修得しておくべき必要不可欠な医学的知識を総合的に理解しているかどうかを評価」する共用試験が実施されている。

また、薬学部でも薬剤師教育が6年制になり、実務実習前の共用試験の準備が進められている。

それらの共用試験には、CBT (Computer Based Testing : コンピュータを使用し、専用のプログラムまたは Web ベースのテストで解答を選択するテスト形式) が採用され、本学でも既に実施が始まっている。

2. 共用試験 (CBT) の実施

医学部の CBT は、平成 17 年度から実施されているが、当初は、受験者数 (約 100 名) の関係で、PC 60 台を使用し 2 日間に渡って実施していた。平成 18 年度に、情報処理実習室(大)が新たに開設されたことにより、120 台の PC の利用が可能になり、全員同時に受験することが可能になった。

薬学部の CBT は、平成 21 年度から正式にスタートする予定であり、昨年度から、トライアルが始まっている。

3. 通常の授業との教室の併用について

CBT の実施については、Altiris で PC を管理することにより、通常利用と共用試験での利用の切り替えがスムーズに行えるようになった。

以前の方式では、

- ・コンピュータを CBT 用に設定した後、動作確認から本番の実施まで、その状態を保持しなければならない。そのため、時には数週間も他の用途には使用できない状態になり、複数の利用形態で実習室を利用することが難しい。

- ・クライアントソフトのインストールおよび CBT に係わる細かな設定 (スクリーンセーバが働かないようにするなど) を台数分行う必要があり非常に手間がかかる。

などの問題があったが、それらは Altiris の利用により、以下のように解消することができた。

- ・各 CBT 用イメージと通常授業用のイメージを用意することにより、「動作確認」「試験本番」と、その度毎にイメージ配信することが可能である。それにより、実習室を CBT の為に独占する日数が格段に少なくなり、時間割等を少し調整することで対応ができるようになった。
- ・1 台のマスター PC に CBT 用のイメージを作成し、そのイメージを Altiris で配信することにより、120 台すべてのコンピュータに同じ環境を用意することができるので、端末の準備にかかる時間が大幅に短縮できた。

また、杉谷キャンパスには、3 箇所の情報処理実習室があるが、それらと実習用サーバセグメントの IP アドレスを設計した際、情報処理実習室(大)、情報処理実習室(中) (小)、実習用サーバをそれぞれ別のセグメントにしたことにより、「医学部 CBT は、外部ネットワークへの接続は一切出来ないようにしたい」「薬学部 CBT は最初と最後に外部への接続が必要」というような要望や、情報処理実習室(大)で CBT を実施している時に、他の実習室を授業や自習に使用するといった、様々なケースに対応できるようになっている。

4. CBT の問題点など

昨年度と今年度の 2 年にわたり CBT を実施したが、大きな問題は生じていない。しかし、CBT 終了後、通常授業のイメージに戻す際にイメージ配信がうまくいかない端末が複数現れる。今後、この不具合が解消されることを希望する。